

到達目標	1) 研修方法						2) 研修時期	
	1	2	3	4	5	6		
与薬の技術 (つづき)	⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	⑦抗生物質の用法と副作用の観察	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	⑧インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	⑨麻薬の主作用・副作用の観察	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	⑩薬剤等の管理 (毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む)	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	救命救急処置技術							
	①意識レベルの把握	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	②気道確保	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	③人工呼吸	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	④閉鎖式心臓マッサージ	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
⑤気管挿管の準備と介助	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑥止血	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑦チームメンバーへの応援要請	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
症状・生体機能管理技術								
①バイタルサイン (呼吸・脈拍・体温・血圧) の観察と解釈	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
②身体計測	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
③静脈血採血と検体の取扱い	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
④動脈血採血の準備と検体の取扱い	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑤採尿・尿検査の方法と検体の取扱い	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑥血糖値測定と検体の取扱い	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑦心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑧パルスオキシメーターによる測定	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
苦痛の緩和・安楽確保の技術								
①安楽な体位の保持	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
②電法等身体安楽促進ケア	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
③リラクゼーション	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
④精神的安楽を保つための看護ケア	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
感染防止の技術								
①スタンダードプリコーション (標準予防策) の実施	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
②必要な防護用具 (手袋、ゴーグル、ガウン等) の選択	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
③無菌操作の実施	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
④医療廃棄物規定に沿った適切な取り扱い	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	

到達目標	1) 研修方法						2) 研修時期	
	1	2	3	4	5	6		
活動・休息援助技術	①歩行介助・移動の介助・移送	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	②体位変換	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	③関節可動域訓練・廃用性症候群予防	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	④入眠・睡眠への援助	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助 (例: 不穩、不働、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助)	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	清潔・衣生活援助技術 (例: 全介助を要する患者、ドレーン挿入、点滴を行っている患者等への実施)							
	①清拭	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	②洗髪	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	③口腔ケア	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
	④入浴介助	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月
⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
呼吸・循環を整える技術								
①酸素吸入療法	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
②吸引 (気管内、口腔内、鼻腔内)	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
③ネブライザーの実施	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
④体温調整	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑤体位ドレーナージ	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑥人工呼吸器の管理	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
創傷管理技術								
①創傷処置	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
②褥瘡の予防	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
③包帯法	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
与薬の技術								
①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
③静脈内注射、点滴静脈内注射	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
④中心静脈内注射の準備・介助・管理	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	
⑤輸液ポンプの準備と管理	1.	2.	3.	4.	5.	6.	月	

到達目標	1) 研修方法						2) 研修時期
	1	2	3	4	5	6	
感染防止の技術 (つづき)	1 全社での基本研修	2 部署での集合研修	3 業務を通じた指導	4 他病院の研修に参加	5 看護協会等その他の研修	6 実施していない	月
	⑤ 針刺し事故防止対策の実施と針刺し事故後の対応	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
安全確保の技術	⑥ 洗浄・消毒・滅菌の適切な選択	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	① 服薬防止の手順に沿った与薬	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
看護技術を支える要素	② 患者誤認防止策の実施	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	③ 転倒転落防止策の実施	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
医療安全の確保(医療安全の確保)	④ 薬剤・放射線暴露防止策の実施	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	① 安全確保対策の適用の判断と実施	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
患者及び家族への説明と助言	② 事故防止に向けた、チーム医療に必要なコミュニケーション	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	③ 適切な感染管理に基づいた感染防止	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
的確な判断と適切な看護技術の提供	① 看護ケアに関する患者への十分な説明と患者の選択を支援するための働きかけ	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	② 家族への配慮や助言	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
看護実践における管理的側面についての到達目標	① 科学的根拠(知識)と観察に基づいた看護技術の必要性の判断	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	② 看護技術の正確な方法の熟知と実施によるリスク予測	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
安全管理	③ 患者の特性や状況に応じた看護技術の選択と応用	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	④ 患者にとって安楽な方法での看護技術の実施	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
情報管理	⑤ 看護計画の立案と実施したケアの正確な記録と評価	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	⑥ 災害・防災管理	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
業務管理	⑦ 物品管理	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月
	⑧ コスト管理	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	1. 2. 3. 4. 5. 6.	月

Q19 あなたの職場の新人看護職員の研修体制についてお聞きいたします。該当する指導体制の番号に○印をつけ、また、その実施時期についてお書きください。

【日勤の場合】

1 先駆看護師に付いて業務を見学する
採用後()日～()日まで

2 機能別に知識やケアの一部を担当する
採用後()日～()日まで

3 先駆看護師と一緒に患者を受け持つ
採用後()日～()日まで

4 先駆看護師が受け持つている患者の知識またはケアの一部を担当する
採用後()日～()日まで

5 先駆看護師のサポートを受けながら、通常より少ない人数の患者を受け持つ
採用後()日～()日まで

6 受け持ち患者(軽症)
先駆看護師のサポートを受けながら、通常と同じ数の軽症の患者を受け持つ
採用後()日～()日まで

7 先駆看護師のサポートを受けながら、他の看護師と同様に患者を受け持つ
採用後()日～()日まで

8 通常より少ない人数の患者を受け持ち、必要に応じて、自ら先駆看護師のサポートを求める
採用後()日～()日まで

9 受け持ち患者(軽症)
通常と同じ数の軽症の患者を受け持ち、必要に応じて、自ら先駆看護師のサポートを求める
採用後()日～()日まで

10 他の看護師と同様に患者を受け持ち、必要に応じて、自ら先駆看護師のサポートを求める
採用後()日～()日まで

【夜勤の場合】

- 1) 新人看護職員が夜間勤務を開始する時期は、いつ頃ですか。
 - 3 交代勤務の施設の場合 準夜勤務 () 月頃～
 - 深夜勤務 () 月頃～
 - 2 交代勤務の施設の場合 夜間勤務 () 月頃～

- 2) 新人看護職員の夜勤の指導体制について、以下の状況が該当する指導体制の番号に○印をつけ、また、その実施時期についてお書きください。

<p>1</p> <p>先駆の夜勤時に新人看護職員は見学をする</p> <p>受け持ち患者</p>	<p>2</p> <p>通常の夜勤人数にプラスで新人看護職員が勤務し、実数可能なケアを提供する</p> <p>受け持ち患者</p>	<p>3</p> <p>通常の夜勤人数にプラスで新人看護職員が勤務し、少ない人数を受け持つ</p> <p>受け持ち患者</p>	<p>夜勤 () 回目; () 月まで</p>
<p>4</p> <p>先輩看護職員のサポートを受けながら、通常の夜勤者の一員として、夜勤患者を受け持つ</p> <p>受け持ち患者 (軽症)</p>	<p>5</p> <p>先輩看護職員のサポートを受けながら、通常の夜勤者の一員として、他の看護職員と同様に患者を受け持つ</p> <p>受け持ち患者</p>	<p>6</p> <p>通常の夜勤者の一員として、自ら先輩看護職員と同等のケアを求める</p> <p>受け持ち患者 (軽症)</p>	<p>夜勤 () 回目; () 月まで</p>
<p>7</p> <p>通常の夜勤者の一員として、他の看護職員と同様に患者を受け持つ。公算に応じて、自ら先輩看護職員のサポートを求める</p> <p>受け持ち患者</p>	<p>夜勤 () 回目; () 月まで</p>		

- Q20 新人看護職員研修期間として設定されている期間をお知らせください。
 - 職場における新人研修期間 採用後から () か月間

- Q21 あなたの職場における新人看護職員研修期間終了時点で、新人看護職員に期待すること(到達目標)はどのようなものですか。

	到達目標
1 情報を収集し、アセスメントする	1 2
2 特定の患者の問題の明確化、看護診断	1 2
3 どのような介入を用いるかの選択	1 2
4 介入に対する患者の反応の評価	1 2
5 計画の修正	1 2
6 看護活動が効果的・効率的であったかの評価	1 2
7 病棟で一般的な(頻度の高い)看護技術を一通り体験する	1 2
8 病棟で一般的な(頻度の高い)看護技術を1人で実施する	1 2
9 一般的なガイドライン(基準・手順)に沿って業務をこなす	1 2
10 病棟のルーチン業務を1人で実施する	1 2
11 適切に患者に関する指示を受け、安全に間違いなく実施する	1 2
12 不確かなことを確認する	1 2
13 決められた時間を守って仕事をす	1 2
14 プライバシーに配慮して医療情報や記録物を取り扱う	1 2
15 繰り返し遭遇する重要な状況のパターンに気づく	1 2
16 複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行う	1 2
17 患者・家族との良好な人間関係を確立する	1 2
18 医療・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重する	1 2
19 同僚から信頼され、受け入れられる	1 2
20 同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	1 2
21 適切な自己表現をする	1 2
22 業務上の連絡・報告・相談を行う	1 2
23 チーム医療の一員としての役割を理解し協働する	1 2
24 自分の健康管理と仕事を続けるための条件を整える	1 2
25 病院および看護部の理念や組織と機能を理解し行動する	1 2
26 配属部署のインフォーマルなルール、慣習などを理解し受け入れる	1 2
27 自己評価や他者評価をふまえた自己の学習課題がわかる	1 2
28 課題の解決に向けて自主的に行動する	1 2
29 看護職員としての自覚と責任ある行動をとる	1 2
30 学習の成果を看護実践に活用する	1 2
31 その他 ()	1 2

Q22 あなたの職場では、新人看護職員研修に対して、どのように受け止めていますか。該当する番号に○印をつけてください。

	とてもそう思う	←	→	全くそう思わない
関心がある	4	3	2	1
重要に思う	4	3	2	1
負担に思う	4	3	2	1
協力的である	4	3	2	1

Q23 あなたの病棟における新人看護職員の評価についてお聞かせします。

評価方法	実施有無	評価時期	評価者
技術チェックリスト	有・無	() 月	自己・指導者・上司
ケースレポート	有・無	() 月	自己・指導者・上司
課題レポート	有・無	() 月	自己・指導者・上司
面接	有・無	() 月	自己・指導者・上司
目標管理	有・無	() 月	自己・指導者・上司
その他 ()	有・無	() 月	自己・指導者・上司

Q24 新人看護職員研修について、課題と感じていること、困っていること等をお書きください。

新人看護職員研修の教育担当者として、ご自身が該当する項目に○印をおつけください。
Q25 新人看護職員研修の担当者を専任として配置する必要があると思いますか。それぞれ理由をお書き下さい。

1. 必要がある 2. 必要ない

理由

Q26 新人看護職員研修の教育担当者（施設において新人看護職員研修の運営を中心として行い、また実地指導者への助言及び指導等を行う者）に関する研修の受講についてお聞かせします。

1) 新人看護職員研修に関する研修受講状況についてお書きください。

受講研修名	受講年	期間・時間	主催者等
			院内・院外 ()
			院内・院外 ()
			院内・院外 ()
			院内・院外 ()

2) 新人看護職員研修の教育担当者に関する研修を受講した方にお聞かせします。

あなたが参加した教育担当者研修の内容について該当するものに○印をつけ、追加の内容がありましたら、具体的にお書きください。

1. 新人看護師を取り巻く現状の理解 2. 教育に関する基本的な考え方
3. 専門職業人としての生涯教育の考え方 4. 指導者の役割（新人看護師の理解）
5. 教育ニーズの把握 6. 教育目標の設定 7. 教育計画の作成 8. 教育計画の実施
9. 教育計画の評価とフィードバック 10. 指導者に求められる要件
11. その他（具体的に）

具体的に

Q27 新人看護職員研修教育担当者に関する研修についてご要望等がありましたら、お書きください。

1) 研修内容について

[]

2) 研修期間について

[]

3) その他

[]

ご協力、ありがとうございました。

— 新人看護職員研修に関する実態調査 —

この調査票は、病棟において、新人看護職員に直接指導を行う実地指導者様にお答えいただく質問紙です。

I. 貴施設の概要について、以下の質問にお答えください。
 回答は、該当する数字に○印を記入、もしくは具体的な記述をお願いします。

Q1. 所在地 () 都道府県

Q2. 設置主体
 1 国・国立病院機構など 2 県・市町村・広域事務組合など 3 その他の公的病院
 4 社会保険関係団体 5 医療法人 6 その他の法人 7 その他 ()

Q3. 施設規模
 1 100床未満 2 100～199床 3 200～399床 4 400床以上

Q4. 入院基本料区分
 1 7対1 2 10対1 3 13対1 4 15対1 5 その他 ()

II. あなたの配属病棟について、以下の質問にお答えください。
 回答は、該当する数字に○印を記入、もしくは具体的な記述をお願いします。

Q5. 主な診療科
 1 内科系 2 外科系 3 精神科など 4 混合 5 その他 ()

Q6. 病床数 () 床

Q7. 看護師等(保健師・助産師・看護師)数 計 () 名
 うち新人看護師数 () 名 うち新卒看護師数 () 名

III. あなた自身のことについて、以下の質問にお答えください。
 回答は、該当する数字に○印を記入、もしくは具体的な記述をお願いします。

Q8. 看護師としての経験年数 () 年 () カ月

Q9. 現施設での勤務年数 () 年 () カ月

Q10. 現在の病棟での勤務年数 () 年 () カ月

Q11. 実地指導者としての従事年数 () 年 () カ月

Q12. 実地指導者としての配置状況
 1 専任 2 兼任 3 その他 ()

Q13. 勤務体制
 1 日勤のみ 2 交代制勤務(指導する新人と同じ) 3 交代制勤務(特に配慮なし)
 4 その他 ()

Q14. 今年度実地指導を担当している新人看護師数 () 名

Q15. 実地指導者としての業務分担上の配慮等について
 1 通常業務・特に配慮はない 2 業務内容について配慮されている
 ※ 2と回答された方は、その内容について具体的に書きください

Q16. 病棟内の新人看護職員の教育に関する責任者は誰ですか
 1 看護師長 2 副師長・主任等 3 教育担当の看護師 4 実地指導者と兼務 5 いない

Q17. 実地指導を行うにあたり、情報交換や相談等を行う機会や場がありますか
 1 病棟内の実地指導者との情報交換や相談を定期的に行っている
 2 病棟内の実地指導者との情報交換や相談を不定期的に行っている
 3 病棟内の教育に関する責任者と情報交換や相談を定期的に行っている
 4 病棟内の教育に関する責任者と情報交換や相談を不定期的に行っている
 5 病院内の教育に関する責任者と情報交換や相談を定期的に行っている
 6 病院内の教育に関する責任者と情報交換や相談を不定期的に行っている
 7 情報交換や相談等は行っていない

Q18. 実地指導を担当するにあたり、これまでに教育担当者としての研修を受けたことがありますか
 1 受けたことがない 2 受けたことがある
 ※ 2と回答された方は、その内容について具体的に書きください。

受講研修名	受講年	期間・時間	主催者等
		日・時間	院内・院外 ()
		日・時間	院内・院外 ()
		日・時間	院内・院外 ()
		日・時間	院内・院外 ()
		日・時間	院内・院外 ()

IV. 教育担当者研修について、以下の質問にお答えください。

回答は、該当する数字に○印を記入、もしくは具体的な記述をお願いします。

Q19. 実地指導を行う上で、受講した研修内容（複数選択可）

- 1 新人看護師を取り巻く現状の理解
- 2 教育に関する基本的な考え方
- 3 専門職業人としての生涯教育の考え方
- 4 指導者の役割(新人看護師の理解)
- 5 教育ニーズの把握
- 6 教育目標の設定
- 7 教育計画の作成
- 8 教育計画の実施
- 9 教育計画の評価とフィードバック
- 10 指導者に求められる要件
- 11 その他(具体的にお書きください。)

Q20. 研修方法

- 1 院内（施設内）研修
- 2 外部研修

Q21. その他、実地指導者に関する研修について、ご要望等がありましたらお書きください。

1) 研修内容について

2) 研修期間について

3) その他

V. 貴病棟の新人看護師の教育体制についてお聞きいたします。

Q22. 病棟における新人教育期間 採用後から () か月間

Q23. 夜勤の開始時期 () 月から

Q24. あなたの病棟における新人の業務の仕方について、該当する指導体制の番号に○印をつけ、また、その実施時期についてお書きください。

【日勤の場合】

1	先駆看護師に付いて業務を教字をする 受け持ち患者	採用後 () 日～() 日まで
2	機能別に処置やケアの一部を担当する 処置・ケア	採用後 () 日～() 日まで
3	先駆看護師と一緒に患者を受け持つ 受け持ち患者	採用後 () 日～() 日まで
4	先駆看護師が受け持っている患者の処置またはケアの一部を担当する 受け持ち患者	採用後 () 日～() 日まで
5	先駆看護師のサポートを受けながら、通常より少ない人数の患者を受け持つ 受け持ち患者	採用後 () 日～() 日まで
6	先駆看護師のサポートを受けながら、通常と同じ数の患者の患者を受け持つ 受け持ち患者(軽症)	採用後 () 日～() 日まで
7	先駆看護師のサポートを受けながら、他の看護師と同様に患者を受け持つ 受け持ち患者	採用後 () 日～() 日まで
8	通常より少ない人数の患者の患者を受け持ち、必要に応じて、自ら先駆看護師のサポートを求める 受け持ち患者	採用後 () 日～() 日まで
9	通常と同じ数の軽度の患者を受け持ち、必要に応じて、自ら先駆看護師のサポートを求める 受け持ち患者(軽症)	採用後 () 日～() 日まで
10	他の看護師と同様に患者を受け持ち、必要に応じて、自ら先駆看護師のサポートを求める 受け持ち患者	採用後 () 日～() 日まで

【夜勤の場合】

1 先登の夜勤時に新人看護師は見学をする
 受け持ち患者
 夜勤 () 回目; () 月まで

2 通常の夜勤人数にプラスで新人看護師が勤務し、実施可能なケアを経験する
 受け持ち患者
 夜勤 () 回目; () 月まで

3 通常の夜勤人数にプラスで新人看護師が勤務し、少ない人数を受け持つ
 受け持ち患者
 夜勤 () 回目; () 月まで

4 先輩看護師のサポートを受けながら、通常の夜勤者の一員として、軽症患者を受け持つ
 受け持ち患者(軽症)
 夜勤 () 回目; () 月まで

5 先輩看護師のサポートを受けながら、通常の夜勤者の一員として、他の看護師と同様に患者を受け持つ
 受け持ち患者
 夜勤 () 回目; () 月まで

6 通常の夜勤者の一員として軽症患者を受け持ち、必要に応じて、自ら先輩看護師のサポートを求める
 受け持ち患者(軽症)
 夜勤 () 回目; () 月まで

7 通常の夜勤者の一員として、他の看護師と同様に患者を受け持ち、必要に応じて、自ら先輩看護師のサポートを求める
 受け持ち患者
 夜勤 () 回目; () 月まで

Q25. 以下に挙げる新人看護師の評価方法について、実施の有無、評価時期、評価者をお答えください。

評価方法	実施有無	評価時期	評価者
技術チェックリスト	有・無	()月	自己・実地指導者・上司
ケースレポート	有・無	()月	自己・実地指導者・上司
課題レポート	有・無	()月	自己・実地指導者・上司
面接	有・無	()月	自己・実地指導者・上司
目標管理	有・無	()月	自己・実地指導者・上司
その他 ()	有・無	()月	自己・実地指導者・上司

Q26. 新人看護師の到達目標(短期・長期)の設定と新人への明示についてお答えください。

短期到達目標	明示の有無	長期到達目標	明示の有無
()週間後	明示している・いない	()カ月後	明示している・いない
()週間後	明示している・いない	()カ月後	明示している・いない
()週間後	明示している・いない	()カ月後	明示している・いない

Q27. あなたの職場では、新人看護師研修に対して、どのように受け止めていますか。該当する番号に○印をつけてください。

	とてもそう思う	←	→	全くそう思わない
関心がある	4	3	2	1
重要に思う	4	3	2	1
負担に思う	4	3	2	1
協力的である	4	3	2	1

VI. あなたが担当した新人看護師の看護業務の習得状況について
 Q28. 以下に提示する看護業務について、その業務は部署での該当業務か、どの程度習得しているか、どの程度行っているかがあります。各業務項目について、A、B欄にそれぞれお答えください。

A欄 : 自分の部署での該当業務
 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。該当しない場合(部署内の看護職がその業務を行っていない場合は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください)。

B欄 : 習得度
 あなたが担当した新人看護師のその業務の習得度はどのくらいですか。1(経験なし)～4(一人でできる)の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。

回答例1
 あなたの部署に当てはまらない業務についての回答例です。A欄に×印を記入しました。この業務については、B欄は回答する必要はありません。

	A欄					
107	オースミニアグアを提供した(レオオスミニア、クロスミニア、クロスミニアなど)	X	1	2	3	4

回答例2
 あなたの部署に当てはまる業務についての回答例です。A欄に○印を記入しました。B欄では、あなたが担当した新人看護師のその業務の習得度は一人でできる“4”ということが示されています。

	A欄				B欄			
145	スタンダードプログラムセッション(標準的予防策)に基づいて、手洗いを行う	○	1	2	3	4		

記入方法	A 自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください。	B 業務の習得度			
		経 験 な し	見 学 を し た	指 導 を 受 け て	一 人 で で き る
1	治療環境・療養環境をととのえた(騒音、温度、マンパワー、看護用具などを含む)				1 2 3 4
2	オムツを使用している患者のケアを提供した				1 2 3 4
3	尿失禁、便秘のある患者のトレーニングプログラムを立案した				1 2 3 4
4	便器や尿器を使用する患者のケアを提供した				1 2 3 4
5	経尿道カテーテルを挿入した				1 2 3 4
6	患者の状態に応じた移送、もしくは移動のための援助を行った(ストレッチャー、車椅子、リフト、トランスファーボードなど)				1 2 3 4
7	歩行介助または歩行補助員を利用した患者の介助を行った(見守り、歩行誘導、移動支持、まっぴら杖、歩行器、杖など)				1 2 3 4
8	不活動による合併症をアセスメントし、予防を行った(良肢位の保持、体位変換、関節可動域訓練、呼吸訓練など)				1 2 3 4
9	睡眠や休息について、患者の状態を把握し、促進するための看護を計画・実施した				1 2 3 4
10	抑制の必要性を判断し、苦痛を伴わない適正な方法を選択し実施した				1 2 3 4
11	離院のおそれのある患者をアセスメントし、予防策を講じたり、発生時に対応した				1 2 3 4
12	臥床状態の患者のリネン・覆衣交換を行った				1 2 3 4
13	体温調節の方法を適切に実施した(温覆法、冷覆法など)				1 2 3 4
14	呼吸療法(体位ドレナージ、深呼吸訓練など)の効果を評価した				1 2 3 4
15	人工呼吸器離脱時の呼吸状態を観察し、アセスメントした				1 2 3 4
16	カテーテルなどの挿入部のケアを行った(中心静脈カテーテル、胸腔ドレージなど)				1 2 3 4
17	創傷の離開の観察と対応を行った(癒合不良、臓器露出など)				1 2 3 4
18	創傷処置や導管ケアを行った(洗浄、ガーゼ交換、ドレナージなど)				1 2 3 4
19	褥創の可能性をアセスメントした(体動不能、栄養状態、失禁など)				1 2 3 4
20	褥創を予防した(スキンケア、体位変換、除圧マットレスの使用など)				1 2 3 4

記入方法	A 自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください。	B 業務の習得度			
		経 験 な し	見 学 を し た	指 導 を 受 け て	一 人 で で き る
21	患者の薬物療法について理解し、適切に(処方量、回数、経路など)与薬した				1 2 3 4
22	経口薬を与薬した				1 2 3 4
23	軟膏、坐薬などを与薬した				1 2 3 4
24	注射薬を与薬した(皮下注射、皮内注射、筋肉内注射)				1 2 3 4
25	静脈血管確保を行った(翼状針、留置針)				1 2 3 4
26	静脈注射を行った				1 2 3 4
27	静脈内点滴注射を行った				1 2 3 4
28	中心静脈点滴ルートによる与薬を行った				1 2 3 4
29	持続点滴装置を使用した(輸液ポンプ、シリンジポンプ、自己コントロール注入器など)				1 2 3 4
30	輸血前・中・後の患者の観察を行い、アセスメントした				1 2 3 4
31	輸血の取り扱いを手順通りに行った(患者や血液型の照合、フィルター選択など)				1 2 3 4
32	毒薬・劇薬などの取り扱いを手順通り実施した(中枢神経抑制剤、筋弛緩剤、化学療法薬剤、向精神薬など)				1 2 3 4
33	麻薬の取り扱いを手順通り実施した				1 2 3 4
34	急変時に医療処置などの介助を行った(挿管、徐細動、ライン挿入など)				1 2 3 4
35	呼吸状態を観察し、アセスメントした(呼吸器合併症、気胸、呼吸音、血液ガス分析データなど)				1 2 3 4
36	適正な機器を用いて、バイタルサインを測定した(呼吸、体温、脈拍、血圧など)				1 2 3 4
37	バイタルサインの異常の有無を判断した(高血圧、徐脈、過呼吸、発熱など)				1 2 3 4
38	フィジカルアセスメントを行った(頭から足先までのアセスメント、入院時の身体アセスメントなど)				1 2 3 4
39	身体計測を適切な器具を用いて行った(身長、体重、腹囲など)				1 2 3 4
40	心電図モニター上の異常を把握した(不整脈、虚血性変化など)				1 2 3 4

記入方法 A欄：自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合は、(部署内の看護職がその業務を行っていない場合)は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください。 B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1(経験なし)～4(一人でできる)の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。	B 業務の習得度 経験なし 見学をした 指導を受けて 一人でできる				
	A 自分の部署での該当業務	1	2	3	4
業務項目					
41 診断に必要な検査を実施した(血糖、尿糖、パルスオキシメータ一、スパイロメータ一など)		1	2	3	4
42 患者の安楽を保つためのケアを行った(体位変換、良肢位保持など)		1	2	3	4
43 対象に合わせたリラクゼーション方法を実施した(指圧、マッサージ、音、香りの工夫など)		1	2	3	4
44 スタンダードブレコーション(標準的予防策)に基づいて、手洗いをを行った		1	2	3	4
45 スタンダードブレコーション(標準的予防策)に基づいて、防護用具を選択し、適切に使用した(ガウン・マスクなど)		1	2	3	4
46 スタンダードブレコーション(標準的予防策)に基づいて、滅菌物の取り扱いや清潔操作を行った		1	2	3	4
47 スタンダードブレコーション(標準的予防策)に基づいて、廃棄物処理などを行った		1	2	3	4
48 針刺し事故予防のための方法を手順どおり行った(リキヤップ、専用廃棄容器の使用など)		1	2	3	4
49 消毒剤の種類と作用、用途を知り、適切に取り扱った		1	2	3	4
50 患者の事故(転落、転倒、誤薬、など)発生のリスクをアセスメントし、予防策について計画立案、実施した		1	2	3	4
51 感染性疾患の発見または報告を行った(MRSA、結核、麻疹、水痘など)		1	2	3	4
52 患者が自分自身の問題を正しく理解し、解決のための行動をとれるよう支援した(コーピング、危機介入など)		1	2	3	4
53 臨床的検査結果に基づいてケアを修正した		1	2	3	4
54 ショックの状態をアセスメントし、適切に対応した(アナフィラキシー、失血性、敗血症など)		1	2	3	4
55 循環状態をアセスメントした(心音、脈拍、血圧、冷感、末梢浮腫など)		1	2	3	4
56 心機能改善のための介入を行った(活動スケジュールの変更、不整脈を管理するためのプロトコール実施、ペースメーカー機能の継続的観察など)		1	2	3	4
57 看護計画を立て、診断と看護診断に基づいて患者ケアの優先度を決定した		1	2	3	4
58 患者の状態についてアセスメントを行い、計画立案した		1	2	3	4
59 治療・検査などにとまらぬ、予測される侵襲(症状・状態)を最小限に抑える計画を立案した(術後合併症、術後呼吸不全、術後疼痛など)		1	2	3	4
60 治療内容・ケア計画などの変更や変更の提案をした		1	2	3	4

記入方法 A欄：自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合は、(部署内の看護職がその業務を行っていない場合)は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください。 B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1(経験なし)～4(一人でできる)の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。	B 業務の習得度 経験なし 見学をした 指導を受けて 一人でできる				
	A 自分の部署での該当業務	1	2	3	4
業務項目					
61 インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事故事例の報告を行った		1	2	3	4
62 薬剤(含、毒薬・劇薬・麻薬)を適切に請求・受領・保管した		1	2	3	4
63 血液製剤を適切に請求・受領・保管した		1	2	3	4
64 災害時の対応について、マニュアルに沿って実践した(患者の安全確保、報告・連絡、初期消火など)		1	2	3	4
65 医療器具を安全で適切に使用した(酸素ボンベ、ストレッチャー、車椅子、抑制具など)		1	2	3	4
66 医療用機器のアラーム発生時の対処を行った(輸液ポンプ、モニタ一、呼吸器など)		1	2	3	4
67 医療用機器の保守点検や保守点検の依頼などを行った(輸液ポンプ、モニター、呼吸器など)		1	2	3	4
68 医療用機器を適正に操作した(輸液ポンプ、モニター、呼吸器など)		1	2	3	4
69 救急処置に使用する物品を確認し、整備した(救急カート、薬品など)		1	2	3	4
70 看護ケアを提供する際、コストへの配慮を行った(サブライ物品や介入方法の選択など)		1	2	3	4
71 患者の個人的選択やライフスタイルを尊重した(性別、ヘルスケアへの意識など)		1	2	3	4
72 患者の尊厳、信念、価値観、宗教に関連したニーズが満たされているかアセスメントした		1	2	3	4
73 患者の権利について情報を提供した(生命に関する自己決定、守秘、インフォームドコンセントなど)		1	2	3	4
74 治療の選択や決定について必要な情報を提供し、患者と共に検討した		1	2	3	4
75 患者のプライバシーを保護した(ベッドの周りにカーテンを引く、問診の場所を確保する、守秘など)		1	2	3	4
76 他職種とともに、入院計画や退院計画をたてるプロセスに参画した		1	2	3	4
77 より包括したケア計画の実践に必要な情報収集をするため、カンファレンスに参加した		1	2	3	4
78 看護を継続するため、訪問看護室、外来、保健所などとの連携をとった		1	2	3	4
79 病院内の人的リソース(他の看護スタッフ、認定看護師、専門看護師、他職種など)を活用した		1	2	3	4
80 他の患者からの傷害、環境による被害などから患者を守った		1	2	3	4

記入方法	A 欄：自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合は、(部署内の看護職がその業務を行っていない場合)は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください。 B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1(経験なし)～4(一人でできる)の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。	B 欄 業務の習得度			
		経験なし	見学をした	指導を受けて	一人でできる
業務項目		1	2	3	4
81	患者の暴言、暴力に対処した				4
82	患者の代弁者として行動した				4
83	医師の指示が適正か(不備や不都合の有無など)を確認した				4
84	医師の指示について、不確かなことを確認した				4
85	同僚や職員からの危険な行動を報告した(患者への虐待、薬物使用・流用など)				4
86	患者がケアを受ける際の意思決定を支援した				4
87	患者教育の際に、背景を考慮した(年齢、文化、宗教、教育など)				4
88	業務について、困ったことやわからないことについて、他のナースからアドバイスを受けたり、確認しながら実施した				4
89	患者の状況の変化について、他のスタッフに情報提供した(申し送り、術後の申し送りなど)				4
90	新人看護職員研修等の院内外研修に参加した				4
91	患者の栄養状態を評価した(皮膚の張感、検査結果、食事摂取量など)				4
92	患者の食事摂取能力をアセスメントした(咀嚼、嚥下など)				4
93	栄養状態改善のためのケアを提供した(分割食、経管栄養、食事介助、好物の提供、食文化を考慮した食事の提供など)				4
94	誤嚥の危険性を判断し(経管栄養、セデーション、嚥下困難など)、誤嚥予防のためのケアを実施した(ゆっくりとした食事介助、体位調整など)				4
95	排泄困難のある患者への介入を行った(浣腸、摘便、マッサージ、排泄誘導など)				4
96	排泄の状態をアセスメントした(便秘、下痢、尿・便失禁、尿閉など)				4
97	歩行補助具などの使用方法について指導を行った(松葉杖、杖、車椅子など)				4
98	清潔・身だしなみを整えるためのケアを行った(入浴介助、清拭、洗髪、整髪、ひげそりなど)				4
99	清潔行為(保清)についてのセルフケア能力をアセスメントし、対象の状態に応じた計画を立案した				4
100	人工呼吸器装着中の患者にケアを提供した(体位・体動、セッティングのチェック、吸引、肺の聴診など)				4

記入方法	A 欄：自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合は、(部署内の看護職がその業務を行っていない場合)は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください。 B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1(経験なし)～4(一人でできる)の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。	B 欄 業務の習得度			
		経験なし	見学をした	指導を受けて	一人でできる
業務項目		1	2	3	4
101	気管切開のある患者のケアを行った				4
102	呼吸状態の改善のための介入を行った(エアウェイの挿入、吸引、体位変換、咳そう、深呼吸など)				4
103	水分出納管理を行った(インアウトバランス、浮腫、脱水の兆候や症状、出血など)				4
104	挿入中のカテーテル類を抜去した(胃チューブ、留置針、膀胱留置カテーテルなど)				4
105	創傷回復を促進するための援助を行った(体位変換、循環血流量の確保、栄養状態改善、皮膚のケアなど)				4
106	オストミーケアを提供した(イレオストミー、コロストミー、ウロストミーなど)				4
107	硬服薬の必要性を決定し与薬した				4
108	薬物療法による効果を評価した				4
109	わからない薬や知らない検査について調べて確認した				4
110	与薬後の反応(作用・副作用)について観察した				4
111	急変時に必要な記録を行った				4
112	心肺停止などの生命の危険がある状態を把握し、介入した(スタットコール、意識レベルの観察、気道確保、心マッサージ、人工呼吸など)				4
113	検体を採取した(血液、尿・便、体液など)				4
114	排泄の観察、排便の観察、排出物の観察およびアセスメントを行った(NGチューブドレナージ、嘔吐、便、尿など)				4
115	ドレナージチューブ装着中の管理を行った(胸腔ドレナージチューブ、創傷ドレナージチューブ、継続的膀胱洗浄など)				4
116	診断に必要な検査の介入を行った(胃カメラ、気管支鏡、腰椎穿刺など)				4
117	診断のための検査結果を継続的に観察した(血液データ、X線画像など)				4
118	感染の症状と兆候を観察し、アセスメントした(体温の変化、腫脹、発赤など)				4
119	患者の神経症状の変化をアセスメントした(意識レベル、筋緊張、運動性など)				4
120	患者の精神的状態の変化を把握した				4

記入方法 A欄：自分の部署での該当業務 その業務があなただの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合は、(部署内の看護職がその業務を行っていない場合)は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください。 B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1(経験なし)～4(一人でできる)の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。	業務項目				
	A 自分の部署での該当業務	B 業務の習得度 経験なし 見学をした 指導を受けて 一人でできる			
121 患者の痛みまたは不快についてアセスメントした(強さ、種類、関連症状など)		1	2	3	4
122 患者の痛みの状態のアセスメントに基づいて鎮痛剤を与えた		1	2	3	4
123 血液の循環不良の可能性をアセスメントした(ギブス装着中、牽引中、点滴固定中、麻痺、周手術期、糖尿病性循環障害など)		1	2	3	4
124 消化器機能をアセスメントした(腸ぜん動音の聴取、腹部膨満など)		1	2	3	4
125 侵襲的処置・検査後または術後の観察を行った		1	2	3	4
126 セデーション(鎮静状態)中の患者の観察を行った		1	2	3	4
127 動脈ライン挿入中の患者の循環状態について観察した		1	2	3	4
128 治療薬と、食事、水分の相互作用をアセスメントした		1	2	3	4
129 アレルギーマスクの有無を確認した		1	2	3	4
130 高カロリー輸液をうける患者の看護を行った		1	2	3	4
131 疼痛緩和のための代替療法を行った(リラクゼーション、イメージ療法、マッサージ、体位変換など)		1	2	3	4
132 安全な看護のための確認作業を行った(患者確認、指示の確認、器具の適切な使用方法の確認など)		1	2	3	4
133 年齢や好み、身体的な限界にみあったADLについて患者に助言した		1	2	3	4
134 セルフケアニーズを満たすための計画立案を患者とともに行った(食事、ガーゼ交換、清潔、適切なリゾースの活用など)		1	2	3	4
135 患者の自立を促すための支援をした		1	2	3	4
136 ボディイメージの変化に対する支援をした(乳房切除術、上下肢切断、脱毛など)		1	2	3	4
137 服薬管理について患者に説明した(自己管理、看護者による管理の必要性、方法、注意点など)		1	2	3	4
138 現実認知ができるようにかかわった		1	2	3	4
139 治療や処置のスケジュールについて説明した(入院指導計画書、退院指導計画書、クリニカルパスなど)		1	2	3	4
140 患者の、不可解、または異常な行動などを把握した		1	2	3	4

記入方法 A欄：自分の部署での該当業務 その業務があなただの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合は、(部署内の看護職がその業務を行っていない場合)は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください。 B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1(経験なし)～4(一人でできる)の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。	業務項目				
	A 自分の部署での該当業務	B 業務の習得度 経験なし 見学をした 指導を受けて 一人でできる			
141 末梢循環促進のための介入を行った(弾性ストッキング、マッサージなど)		1	2	3	4
142 侵襲的処置・検査などの準備と介助を行った(中心静脈ライン挿入、胸・腹腔ドレーン挿入など)		1	2	3	4
143 透析用のシャントのある患者にケアを提供した		1	2	3	4
144 出血、血栓、ショックなどのリスクをアセスメントし、必要な介入をした		1	2	3	4
145 低血糖、高血糖時の対応を行った		1	2	3	4
146 末梢ラインのある患者の観察と必要なケアを行った		1	2	3	4
147 痙攣のリスクがある患者の観察と必要なケアを行った		1	2	3	4
148 臨終・死亡時に関する対応を行った(死後の処置、遺族への対応、必要書類の準備・作成など)		1	2	3	4
149 患者の評価にクリニカルパス、ケアマップ、ケアプランを使用した		1	2	3	4
150 ケアプラン立案の際に文献やその他のリソースを活用した		1	2	3	4
151 実施したケアについての記録をした		1	2	3	4
152 セルフケア能力をアセスメントした(食事摂取、更衣、清潔、適切なリゾース活用など)		1	2	3	4
153 固定具の着脱を行った(添え木、矯正具、ブーツなど)		1	2	3	4
154 処置、検査や手術に対する事前準備状態(身体的、心理的)をアセスメントした		1	2	3	4
155 処置前や術前オリエンテーションについて、患者の理解度をアセスメントした		1	2	3	4
156 訴えを繰り返す患者の心理状態をアセスメントした		1	2	3	4
157 患者が自分の疾患についてどのようなようにとらえているかをアセスメントした		1	2	3	4
158 患者が治療計画を拒否したり従わなかったりする理由をアセスメントした		1	2	3	4
159 患者のコーピングの仕方を把握した		1	2	3	4
160 患者と看護ケア提供者の見通しや感じ方の違いを把握した		1	2	3	4

記入方法	A 自身の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄について回答してください。 該当しない場合(部署内の看護職がその業務を行っていない場合は、A欄に×印を記入し、B欄は回答しないでください)。	B 業務の習得度			
		経 験 な し	見 学 を し た	指 導 を 受 け て で き る	一 人 で で き る
	業務項目				
161	患者と患者をとりまく人々の苦悩、悲嘆、喪失、死、遺族の悲しみに対する援助を行った(ターミナル期の患者、身体の一部を失った患者など)	1	2	3	4
162	患者の心配事を傾聴し共感した	1	2	3	4
163	コミュニケーション方法を工夫し、利用した(文字盤、ボード、通訳の依頼など)	1	2	3	4
164	患者が、日常生活行動について自覚するために説明、教育、支援などを行った	1	2	3	4
165	患者のキーパーソンに特定の技術を教育をした(吸引、血糖測定、創傷処置など)	1	2	3	4
166	健康障害(逸脱)や問題を持つ患者の教育・相談を行った(生活習慣など)	1	2	3	4
167	患者の病気に対する心理的反応をアセスメントした	1	2	3	4
168	患者へのケアを提供する上でのサポートシステムをアセスメントした	1	2	3	4
169	健康上のリスクをアセスメントし、健康増進についての教育を行った(生活習慣、遺伝的疾患、乳房自己検診、スクリーニング方法など)	1	2	3	4
170	補助具や補助装置を使用している患者について、セルフケア能力をアセスメントし、必要に応じたケアを行った(自助具、松葉杖、義歯、義肢、補聴器など)	1	2	3	4
171	感覚器の能力の変化に適応できるよう援助した(視覚、視覚、痛覚など)	1	2	3	4
172	疾患の自己コントロールを支援するための介入を行った(治療への同意・協力、生活習慣の修正など)	1	2	3	4
173	医師の指示を受けた(指示受け)	1	2	3	4
174	患者とケア提供者との調整をした(ケアの調整、ケアの管理など)	1	2	3	4
175	患者の心理社会的状態、身体的状態、行動が、発達課題に応じた段階であるかアセスメントした	1	2	3	4
176	患者の発達段階に応じたケアを行った	1	2	3	4
177	発達段階の移行期に伴う援助を行った(新生児の愛着、親としての役割、思春期、退職期、更年期など)	1	2	3	4
178	患者が役割の変化に適応するための介入を行った	1	2	3	4
179	退院・転出時などに際してサマリーを書いた	1	2	3	4
180	患者のベッド移動を調整した	1	2	3	4

Q29. あなたの病棟における新人研修期間終了時点で新人看護師に期待すること(到達目標)および、あなたが担当した新人看護師の看護業務の習得状況について、以下の質問にお答えください。

		到達目標				習得状況			
		で 指 導 を 受 け て し る	一 人 で し る	で も な い	一 人 で し る	で も な い	一 人 で し る	一 人 で し る	一 人 で し る
1	情報を収集し、アセスメントする	1	2	1	2	3			
2	特定の患者の問題の明確化、看護診断	1	2	1	2	3			
3	どのような介入を用いるかの選択	1	2	1	2	3			
4	介入に対する患者の反応の評価	1	2	1	2	3			
5	計画の修正	1	2	1	2	3			
6	看護活動が効果的・効率的であったかの評価	1	2	1	2	3			
7	病棟で一般的な(頻度の高い)看護技術を一通り体験する	1	2	1	2	3			
8	病棟で一般的な(頻度の高い)看護技術を1人で実施する	1	2	1	2	3			
9	一般的なガイドライン(基準・手順)に沿って業務をこなす	1	2	1	2	3			
10	病棟のルーチン業務を1人で実施する	1	2	1	2	3			
11	適切に患者に関する指示を受け、安全に間違いなく実施する	1	2	1	2	3			
12	不確かなことを確認する	1	2	1	2	3			
13	決められた時間を守って仕事をする	1	2	1	2	3			
14	プライベートに配慮して医療情報や記録物を取り扱う	1	2	1	2	3			
15	繰り返し遭遇する重要な状況のパターンに気づく	1	2	1	2	3			
16	複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行う	1	2	1	2	3			
17	患者・家族との良好な人間関係を確立する	1	2	1	2	3			
18	医療・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重する	1	2	1	2	3			
19	同僚から信頼され、受け入れられる	1	2	1	2	3			
20	同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	1	2	1	2	3			
21	適切な自己表現をする	1	2	1	2	3			
22	業務上の連絡・報告・相談を行う	1	2	1	2	3			
23	チーム医療の一員としての役割を理解し協働する	1	2	1	2	3			
24	自分の健康管理和仕事を続けるための条件を整える	1	2	1	2	3			
25	病院および看護部の理念や組織と機能を理解し行動する	1	2	1	2	3			
26	配属部署のインフォーマルなルール、慣習などを理解し受け入れる	1	2	1	2	3			
27	自己評価や他者評価をふまえた自己の学習課題がわかる	1	2	1	2	3			
28	課題の解決に向けて自主的に行動する	1	2	1	2	3			
29	看護職員としての自覚と責任ある行動をとる	1	2	1	2	3			
30	学習の成果を看護実践に活用する	1	2	1	2	3			
31	その他 ()	1	2	1	2	3			

ご協力、ありがとうございました。

— 新人看護職員研修に関する実態調査 —
この調査票は、新人看護師の皆さまにお答えいただく質問紙です。

以下の質問について、該当する項目に○印を記入または空欄には具体的に記入をお願いします。

I. あなた自身のことについて、以下の質問にお答えください。

Q1. 性別	1 男性	2 女性			
Q2. 看護基礎教育機関	1 看護学校・養成所等	2 短期大学	3 大学		
Q3. 看護師としての就業期間はどのくらいですか。	() 年	() 月			
Q4. 看護師として就業する以前に准看護師として就業した経験がある場合、その期間はどのくらいですか。	() 年	() 月			
Q5. 勤務している所属施設の所在地	() 都	() 道	() 府	() 県	
Q6. 勤務している所属施設の設置主体	1 国・国立病院機構など	2 県・市町村・広域事務組合など	3 その他の公的病院		
Q7. 勤務している所属機関・組織の規模	1 100床未満	2 100～199床	3 200～399床	4 400床以上	
Q8. 勤務している所属機関・組織の入院基本料区分	1 7対1	2 10対1	3 13対1	4 15対1	5 その他()
Q9. あなたの勤務形態について、最もよく表わしているのは下記のとおりですか。(1つだけ選択)	1 交代制(交代、交代など)	2 日勤のみ	3 夜勤のみ		
Q10. あなたの所属する病棟の診療科について、最もよく表わしているのは下記のとおりですか。(1つだけ選択)	1 クリティカルケア(ICU, CCUなど)	2 救急部門	3 外科系		
	4 内科系	5 小児科	6 婦人科・産婦人科など	7 精神・神経科など	
	8 療養型	9 高齢者ケア	10 感染症	11 リハビリテーション	
	12 緩和ケア	13 その他(具体的に)			
Q11. あなたの所属部署において、新人研修期間として設定されている期間はどのくらいですか。	1 () 年 () か月	2 設定されていない			
Q12. 新人研修期間中に受けた研修方法や評価について該当するものはどれですか。(複数選択可)	1 集合型技術研修	2 研修担当者による指導	3 OJT(業務をしながらの指導)		
	4 新人業務マニュアルを用いた指導	5 チェックリストを利用した評価	6 試験	7 その他(具体的に)	

Q13. あなたの職場では、新人看護職員研修に対して、どのように受け止められていると思いますか。該当する番号に○をつけてください。

	とてもそう思う	←	→	全くそう思わない
(1) 関心がある	4	3	2	1
(2) 重要に思う	4	3	2	1
(3) 負担に思う	4	3	2	1
(4) 協力的である	4	3	2	1

II. 実際に従事している看護業務について、以下の質問にお答えください。
なお、その日実施した業務について、業務終了後にご記入ください。

Q14 以下に提示する看護業務について、その業務は部署での該当業務か、どの程度習得しているか、どの程度行っているかをおたずねします。

下記の内容を注意深く読んで、質問にお答えください。

A欄 : 自分の部署での該当業務

その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。該当しない場合(部署内の看護職がその業務を行っている場合)は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しなくてください。

B欄 : 習得度

その業務は、どの程度自立して実践できますか。

1(経験なし)～4(一人でできる)の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。

C欄 : 今日勤務中に実施した回数

あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。

回答例1

あなたの部署に当てはまらない業務についての回答例です。A欄に×印を記入しました。この業務については、B欄、C欄は回答する必要はありません。

173	医師の指示を受けた(指示受け)	A欄	B欄	C欄
		X	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5

回答例2

あなたの部署に当てはまる業務についての回答例です。A欄に○印を記入しました。B欄では、その業務の習得度は一人でできる“4”ということが示されています。また、今日の勤務でその業務を5回以上実施したことがC欄に示されています。

44	スタンダートプレコネクション(機种的予防策)に基づいて、手洗いをを行った	A欄	B欄	C欄
		○	1 2 3 ④	0 1 2 3 4 5

記入方法	A 自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。 該当しない場合（部署内の看護職がその業務を行っていない場合は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しないでください。） B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれ項目について、1（経験なし）～4（一人でできる）の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。 C欄：今日の勤務中に実施した回数 あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。	B 業務の習得度 詳細なし 見学をした 指導を受けても 一人でできる	C 今日の勤務中に実施した回数 0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
1	治療環境・療養環境をととのえた（雑音、温度、マンパワー、看護用具などを含む）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
2	オムツを使用している患者のケアを提供した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
3	尿失禁、便秘、便失禁のある患者のトレーニングプログラムを立案した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
4	便器や尿器を使用する患者のケアを提供した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
5	経尿道カテーテルを挿入した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
6	患者の状態に応じた移送、もしくは移動のための援助を行った（ストレッチャー、車椅子、リフト、トランスファーボードなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
7	歩行補助または歩行補助器具を利用した患者の介助を行った（見守り、歩行誘導、移動支援、まっは杖、歩行器、杖など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
8	不活動によるアセスメントし、予防を行った（良肢位の保持、体位変換、関節可動域訓練、呼吸訓練など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
9	睡眠や休息について、患者の状態を把握し、促進するための看護を計画・実施した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
10	抑制の必要性を判断し、苦痛を伴わない適正な方法を選択し実施した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
11	離床のおそれのある患者をアセスメントし、予防策を講じたり、発臥時に対応した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
12	臥床状態の患者のリネン・寝衣交換を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
13	体温調節の方法を適切に実施した（温電法、冷電法など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
14	呼吸療法（体位ドレナージ、深呼吸訓練など）の効果を評価した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
15	人工呼吸器離脱時の呼吸状態を観察し、アセスメントした	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
16	カテーテルなどの刺入部のケアを行った（中心静脈カテーテル、胸腔ドレーンなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
17	創傷の離開の観察と対応を行った（結合不良、臓器露出など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
18	創傷処置や褥創ケアを行った（洗浄、ガーゼ交換、ドレナージなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
19	褥創の可能性をアセスメントした（体動不能、栄養状態、失禁など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
20	褥創を予防した（スクランケア、体位変換、除圧マットレスの使用など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
21	患者の薬物療法について理解し、適切に処方量、回数、経路などと連携した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
22	経口薬を与えた	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
23	飲薬、坐薬などを与えた	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上

記入方法	A 自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。 該当しない場合（部署内の看護職がその業務を行っていない場合は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しないでください。） B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれ項目について、1（経験なし）～4（一人でできる）の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。 C欄：今日の勤務中に実施した回数 あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。	B 業務の習得度 詳細なし 見学をした 指導を受けても 一人でできる	C 今日の勤務中に実施した回数 0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
24	注射薬を与えた（皮下注射、皮内注射、筋肉内注射）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
25	静脈血管確保を行った（翼状針、留置針）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
26	静脈注射を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
27	静脈内点滴注射を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
28	中心静脈点滴ルートによる与薬を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
29	持続点滴装置を使用した（輸液ポンプ、シリンジポンプ、自己コンローラ注射器など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
30	輸血前・中・後の患者の観察を行い、アセスメントした	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
31	輸血の取り扱いは手帳通りに行った（患者や血液型の照合、フィルタ一選択など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
32	癌薬・劇薬などの取り扱いを手順通り実施した（中枢神経抑制剤、麻地緩和剤、化学療法剤、向精神薬など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
33	麻薬の取り扱いを手順通り実施した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
34	急変時に医療処置などの介助を行った（挿管、徐細動、ライン挿入など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
35	呼吸状態を観察し、アセスメントした（呼吸器合併症、気胸、呼吸音、血液ガス分析データなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
36	バイタルサインの異常の有無を測定した（呼吸、体温、脈拍、血圧など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
37	バイタルサインの異常の有無を判断した（高血圧、徐脈、過呼吸、発熱など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
38	フィジカルアセスメントを行った（頭から足先までのアセスメント、入院時の身体アセスメントなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
39	身体計測を適切な器具を用いて行った（身長、体重、体温など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
40	心電図モニター上の異常を把握した（不整脈、虚血性変化など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
41	診断に必要な検査を実施した（血糖、尿酸、パルスオキシメーター、バイオレーターなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
42	患者の安楽を促すためのケアを行った（体位変換、良肢位保持など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
43	対象に合わせたリラクゼーション方法を実施した（指圧、マッサージ、音、香りの工夫など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
44	スタンダードプロセコジョン（標準的予防策）に基づいて、手洗いをを行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
45	スタンダードプロセコジョン（標準的予防策）に基づいて、防護用具を選択し、適切に使用した（ガウン・マスクなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
46	スタンダードプロセコジョン（標準的予防策）に基づいて、滅菌物の取り扱いや消毒操作を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上

記入方法	A 自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。 該当しない場合は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しないでください。 B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それから該当するものを1つ選び、○印をつけてください。 C欄：今日の勤務中に実施した回数 あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。	A 自分の部署での該当業務	B 業務の習得度 一人でできる 指導を受けている 見学をした 研修なし	C 今日の勤務中に実施した回数
47	スタンダードプレコネクション（標準的予防策）に基づいて、廃棄物処理などを行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
48	針刺し事故予防のための方法を手順どおり行った（リキヤップ、専用廃棄容器の使用など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
49	消毒剤の種類と作用、用途を知り、適切に取り扱った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
50	患者の事故（転落、転倒、誤薬、など）発生のリスクをアセスメントし、予防策について計画立案、実施した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
51	感染性疾患の発見または報告を行った（MRSA、結核、麻疹、水痘など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
52	患者が自分自身の問題を正しく理解し、解決のための行動をとれるよう支援した（コーピング、危機介入など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
53	臨床的検査結果に基づいてケアを修正した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
54	ショックの状態をアセスメントし、適切に対応した（アナフィラキシー、失血性 敗血症など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
55	循環状態をアセスメントした（心音、脈拍、血圧、冷感、末梢浮腫など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
56	心機能改善のための介入を行った（活動スケジュールの変更、不整脈を管理するためのプロトコール実施、ベータブロッカー機能の継続的観察など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
57	看護計画を立て、診断と看護診断に基づいて患者ケアの優先度を決定した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
58	患者の状態についてアセスメントを行い、計画立案した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
59	治療・検査などにもない、予測される侵襲（症状・状態）を最小限に抑える計画を立案した（術後合併症、術後呼吸不全、術後疼痛など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
60	治療内容・ケア計画などの変更や変更の提案をした	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
61	インジデント（ヒヤリ・ハット）事例や事故事例の報告を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
62	薬剤（含、毒薬・劇薬・麻薬）を適切に請求・受領・保管した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
63	血液製剤を適切に請求・受領・保管した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
64	災害時の対応について、マニュアルに沿って実践した（患者の安全確保、報告・連絡、初期消火など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
65	医療器具を安全で適切に使用した（廃棄ポンプ、ストレッチャー、車椅子、担架など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
66	医療用機器のアラーム発生時の対処を行った（輸液ポンプ、モニタ一、呼吸器など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
67	医療用機器の保守点検や保守点検の依頼などを行った（輸液ポンプ、モニタ一、呼吸器など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
68	医療用機器を適正に操作した（輸液ポンプ、モニタ一、呼吸器など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
69	緊急処置に使用する物品を確認し、整備した（救急カート、薬品など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5

記入方法	A 自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。 該当しない場合は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しないでください。 B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それから該当するものを1つ選び、○印をつけてください。 C欄：今日の勤務中に実施した回数 あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。	A 自分の部署での該当業務	B 業務の習得度 一人でできる 指導を受けている 見学をした 研修なし	C 今日の勤務中に実施した回数
70	看護ケアを提供する際、コストへの配慮を行った（サブライ物品や介入方法の選択など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
71	患者の個人的選択やライフスタイルを尊重した（性別、ヘルスクエアへの意識など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
72	患者の尊厳、信念、価値観、宗教に関連したニーズが満たされているかアセスメントした	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
73	患者の権利について情報を提供した（生命に関した自己決定、守秘、インフォームドコンセントなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
74	治療の選択や決定について必要な情報を提供し、患者と共に検討した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
75	患者のプライバシーを保護した（ベッドの周りにカーテンを引く、問診の場所を確保する、守秘など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
76	他職種とともに、入院計画や退院計画をたてるプロセスに参画した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
77	より包括したケア計画の実践に必要な情報収集をするため、カンファレンスに参加した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
78	看護を継続するため、訪問看護室、外来、保健所などの連携をとった	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
79	病院内的人的リソース（他の看護スタッフ、認定看護師・専門看護師、他職種など）を活用した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
80	他の患者からの被害、環境による被害などから患者を守った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
81	患者の暴言、暴力に対処した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
82	患者の指示が適正か（不備や不都合の有無など）を確認した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
83	医師の指示が適正か（不備や不都合の有無など）を確認した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
84	医師の指示について、不確かなことを確認した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
85	同僚や職員との危険な行動を報告した（患者への虐待、薬物使用、流用など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
86	患者がケアを受けられる際の意思決定を支援した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
87	患者教育の際に、背景を考慮した（年齢、文化、宗教、教育など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
88	業務について、困ったことやわからないことについて、他のナースからアドバイスを受けていたり、確認しながら実施した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
89	患者の状況の変化について、他のスタッフに情報提供した（申し送り、術後の申し送りなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
90	新人看護職員研修等の院内外研修に参加した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
91	患者の栄養状態を評価した（皮膚の張感、検査結果、食事歴歴取など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5
92	患者の食事摂取能力をアセスメントした（咀嚼、嚥下など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5

記入方法	A 自分の部署での該当業務	B 業務の習得度	C 今日の勤務中に実施した回数
<p>記入方法</p> <p>A欄：自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。 該当しない場合（部署内の看護職がその業務を行っていない場合は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しないでください。）</p> <p>B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1（経験なし）～4（一人でできる）の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。</p> <p>C欄：今日の勤務中に実施した回数 あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。</p> <p>業務項目</p>	<p>1 2 3 4</p> <p>1 2 3 4</p> <p>0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上</p>	<p>0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上</p>	
93	栄養状態改善のためのケアを提供した（分別食、経管栄養、食事介助、好物の提供、食文化を考慮した食事の提供など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
94	認識の危険性を判断し（経管栄養、セデーション、嚥下困難など）、認識予防のためのケアを実施した（ゆづくりした食事介助、体位調整など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
95	排泄困難のある患者への介入を行った（浣腸、摘便、マッサージ、排泄誘導など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
96	排泄の状態をアセスメントした（便秘、下痢、尿・便失禁、尿閉など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
97	歩行補助具などの使用方法について指導を行った（松葉杖、杖、車椅子など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
98	清潔・身だしなみを整えるためのケアを行った（入浴介助、清拭、洗髪、整髪、ひげそりなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
99	清潔行為（保清）についてのセルフケア能力をアセスメントし、対象の状態に応じた計画を立案した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
100	人工呼吸器装着中の患者にケアを提供した（体位・体動、セッティングのチェック、吸引、肺の聴診など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
101	気管切開のある患者のケアを行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
102	呼吸状態の改善のための介入を行った（エアウェイの挿入、吸引、体位変換、咳そう、深呼吸など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
103	水分摂取管理を行った（インアウトバランス、浮腫、脱水の兆候や症状、出血など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
104	挿入中のカテーテル類を抜去した（胃チューブ、留置針、膀胱留置カテーテルなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
105	創傷回復を促進するための援助を行った（体位変換、循環血液量の確保、栄養状態改善、皮膚のケアなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
106	オストミーケアを提供した（イレオストミー、コロストミー、ウロストミーなど）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
107	鎮痛薬の必要性を決定し与薬した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
108	薬物療法による効果を評価した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
109	わからない薬や知らない検査について調べて確認した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
110	与薬後の反応（作用・副作用）について観察した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
111	急変時に必要な記録を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
112	心肺停止などの生命の危険がある状態を把握し、介入した（スタックトコール、意識レベルの観察、気道確保、心マッサージ、人工呼吸など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
113	液体を採取した（血液、尿・便、体液など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
114	排泄の観察、排泄物の観察、排出物の観察およびアセスメントを行った（NGチューブ装着中の管理を行った（腸腔ドレナージチューブ、創傷ドレナージチューブ、経腸的膀胱洗浄など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
115	ドレナージチューブ装着中の管理を行った（腸腔ドレナージチューブ、創傷ドレナージチューブ、経腸的膀胱洗浄など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上

記入方法	A 自分の部署での該当業務	B 業務の習得度	C 今日の勤務中に実施した回数
<p>記入方法</p> <p>A欄：自分の部署での該当業務 その業務があなたの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。 該当しない場合（部署内の看護職がその業務を行っていない場合は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しないでください。）</p> <p>B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1（経験なし）～4（一人でできる）の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。</p> <p>C欄：今日の勤務中に実施した回数 あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。</p> <p>業務項目</p>	<p>1 2 3 4</p> <p>1 2 3 4</p> <p>0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上</p>	<p>0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上</p>	
116	診断に必要な検査の介助を行った（胃カメラ、気管支鏡、腰椎穿刺など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
117	診断のための検査結果を継続的に観察した（血液データ、X線画像など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
118	感染の症状と兆候を観察し、アセスメントした（体温の変化、腫脹、発赤など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
119	患者の神経症状の変化をアセスメントした（意識レベル、筋緊張、運動性など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
120	患者の精神的状態の変化を把握した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
121	患者の痛みまたは不快についてアセスメントした（強さ、種類、関連症状など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
122	患者の痛みの状態のアセスメントに基づいて鎮痛剤を与薬した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
123	血液の循環不良の可能性をアセスメントした（ギプス装着中、牽引中、点滴固定中、麻痺、手足拘攣、糖尿病性循環障害など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
124	消化器機能をアセスメントした（腸ぜん動音の聴取、腹部膨満など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
125	侵襲的処置（鎮静状態）検査後または術後の観察を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
126	セデーション（鎮静状態）中の患者の観察を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
127	動脈ライン挿入中の患者の循環状態について観察した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
128	治療薬と、食事、水分の相互作用をアセスメントした	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
129	アレルギ一の有無を確認した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
130	高カロリー輸液をうける患者の看護を行った	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
131	疼痛緩和のための代替療法を行った（リラクゼーション、イメージ療法、マッサージ、体位変換など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
132	安全な看護のための確認作業を行った（患者確認、指示の確認、器具の適切な使用方法の確認など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
133	年齢や好み、身体的な限界にみあったADLについて患者に助言した	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
134	セルフケアニーズを満たすための計画立案を患者とともに行った（食事、ガーゼ交換、清潔、適切なリソースの活用など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
135	患者の自立を促すための支援をした	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
136	ボディイメージの変化に対する支援をした（乳房切除術、上下肢切断、脱毛など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
137	服薬管理について患者に説明した（自己管理、看護者による管理の必要性、方法、注意点など）	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上
138	現実認知ができるようにかかわった	1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回 以上

記入方法	A欄：自分の部署での該当業務 その業務があなただの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。 該当しない場合（部署内の看護職がその業務を行っていない場合は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しないでください。） B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1（経験なし）～4（一人でできる）の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。 C欄：今日の勤務中に実施した回数 あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。	A 自分の部署での該当業務	B 業務の習得度 1 2 3 4 1人でできる 指導を受けられる 見本をした 経験なし	C 今日の勤務中に実施した回数 0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
139	治療や処置のスケジュールについて説明した（入院指導計画書、退院指導計画書、クリニカルパスなど）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
140	患者の、不可解、または異常な行動などを把握した		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
141	末梢循環促進のための介入を行った（弾性ストッキング、マッサージなど）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
142	侵襲的処置・検査などの準備と介助を行った（中心静脈ライン挿入、胸・腹腔ドレーン挿入など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
143	透析用のシャントのある患者にケアを提供した		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
144	出血、血栓、ショックなどのリスクをアセスメントし、必要な介入をした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
145	低血糖、高血糖時の対応を行った		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
146	末梢ラインのある患者の観察と必要なケアを行った		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
147	痙攣のリスクがある患者の観察と必要なケアを行った		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
148	臨終・死に時に関する対応を行った（死後の処置、遺族への対応、必要書類の準備・作成など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
149	患者の評価にクリニカルパス、ケアマップ、ケアプランを使用した		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
150	ケアプラン立案の際に文献やその他のリソースを活用した		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
151	実施したケアについての記録をした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
152	セルフケア能力をアセスメントした（食事摂取、更衣、清潔、適切なリソース活用など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
153	固定具の着脱を行った（添え木、矯正具、ブーツなど）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
154	処置、検査や手術に対する事前準備状態（身体的、心理的）をアセスメントした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
155	処置前や術前オリエンテーションについて、患者の理解度をアセスメントした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
156	訴えを繰り返す患者の心理状態をアセスメントした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
157	患者が自分の疾患についてどのようにとらえているかをアセスメントした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
158	患者が治療計画を拒否したり従わなかったりする理由をアセスメントした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
159	患者のコーピングの仕方を把握した		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
160	患者と看護ケア提供者の見通しや感じ方の違いを把握した		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
161	患者と患者をとりまく人々の苦悩、悲嘆、喪失、死、遺族の悲しみに対する援助を行った（ターミナル期の患者、身体の一部を失った患者など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回

記入方法	A欄：自分の部署での該当業務 その業務があなただの勤務する部署において、該当する場合は、A欄に○印を記入し、B欄、C欄について回答してください。 該当しない場合（部署内の看護職がその業務を行っていない場合は、A欄に×印を記入し、B欄、C欄は回答しないでください。） B欄：習得度 その業務は、どの程度自立して実践できますか。 それぞれの項目について、1（経験なし）～4（一人でできる）の中から該当するものを1つ選び、○印をつけてください。 C欄：今日の勤務中に実施した回数 あなたは、今日の勤務中にその業務を何回行いましたか。実施した回数に○印をつけてください。	A 自分の部署での該当業務	B 業務の習得度 1 2 3 4 一人でできる 指導を受けられる 見本をした 経験なし	C 今日の勤務中に実施した回数 0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回以上
162	患者の心配事を傾聴し共感した		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
163	コミュニケーション方法を工夫し、利用した（文字盤、ボード、通訳の依頼など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
164	患者が、日常生活行動について自覚するために説明、教育、支援などをを行った		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
165	患者のキーパーソンに特定の技術を教育をした（吸引、血糖測定、創傷処置など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
166	健康障害（逸脱）や問題を持つ患者の教育・相談を行った（生活習慣など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
167	患者の病氣に対する心理的反応をアセスメントした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
168	患者へのケアを提供する上でサポートシステムをアセスメントした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
169	健康上のリスクをアセスメントし、健康増進についての教育を行った（生活習慣、遺伝的疾患、乳房自己検診、スクリーニング方法など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
170	補助具や補助装置を使用している患者について、セルフケア能力をアセスメントし、必要に応じたケアを行った（自助具、松葉杖、義歯、義肢、補聴器など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
171	感覚器の能力の変化に適切に反応できるように援助した（聴覚、視覚、痛覚など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
172	疾患の自己コントロールを支援するための介入を行った（治療への同意・協力、生活習慣の修正など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
173	医師の指示を受けた（指示交付）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
174	患者とケア提供者との調整をした（ケアの調整、ケアの管理など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
175	患者の心理社会的状態、身体的状態、行動が、発達課題に応じた段階であるかアセスメントした		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
176	患者の発達段階に応じたケアを行った		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
177	発達段階の移行期に伴う援助を行った（新生児の愛着、親としての役割、思春期、退職期、更年期など）		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
178	患者が役割の変化に適応するための介入を行った		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
179	退院・転出時などに際してサマリーを書いた		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回
180	患者のベッド移動を調整した		1 2 3 4	0 1 2 3 4 5 回 回 回 回 回

Q15. あなたが行う看護活動全般についてお答えください。以下の質問にお答えください。
下記に挙げた看護活動はどのくらい実施していますか。

看護活動	全く しない	ほと んど ない	時 々	しば しば	日 常 的
1 情報を収集し、アセスメントする	1	2	3	4	5
2 特定の患者の問題の明確化、看護診断	1	2	3	4	5
3 どのような介入を用いるかの選択	1	2	3	4	5
4 介入に対する患者の反応の評価	1	2	3	4	5
5 計画の修正	1	2	3	4	5
6 看護活動が効果的・効率的であったかの評価	1	2	3	4	5
7 病棟で一般的な(頻度の高い)看護技術を一通り体験する	1	2	3	4	5
8 病棟で一般的な(頻度の高い)看護技術を1人で実施する	1	2	3	4	5
9 一般的なガイドライン(基準・手順)に沿って業務をこなす	1	2	3	4	5
10 病棟のルチン業務を1人で実施する	1	2	3	4	5
11 適切に患者に関する指示を受け、安全に間違いない実施する	1	2	3	4	5
12 不確かなことを確認する	1	2	3	4	5
13 決められた時間を守って仕事をする	1	2	3	4	5
14 プライバシーに配慮して医療情報や記録物を取り扱う	1	2	3	4	5
15 繰り返し遭遇する重要な状況のパターンに気づく	1	2	3	4	5
16 複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行う	1	2	3	4	5
17 患者の理解と患者・家族との良好な人間関係を確立する	1	2	3	4	5
18 医療・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重する	1	2	3	4	5
19 同僚から信頼され、受け入れられる	1	2	3	4	5
20 同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる	1	2	3	4	5
21 適切な自己表現をする	1	2	3	4	5
22 業務上の連絡・報告・相談を行う	1	2	3	4	5
23 チーム医療の一員としての役割を理解し協働する	1	2	3	4	5
24 自分の健康管理と仕事を続けるための条件を整える	1	2	3	4	5
25 病院および看護部の理念や組織と機能を理解し行動する	1	2	3	4	5
26 配属部署のインフォーマルなルール、慣習などを理解し受け入れる	1	2	3	4	5
27 自己評価や他者評価をふまえた自己の学習課題がわかる	1	2	3	4	5
28 課題の解決に向けて自主的に行動する	1	2	3	4	5
29 看護職員としての自覚と責任ある行動をとる	1	2	3	4	5
30 学習の成果を看護実践に活用する	1	2	3	4	5

Q16. あなたの就業時間は、どのくらいの割合(%)で下記のことにご費やしていますか。
合計が必ず100%になるように答えてください。

管理業務 (業務割り当て、ベッドコントロール、管理日誌作成など)	%
患者に対する直接的ケア (準備から後片づけを含む現場でのケア、実施記録)	%
間接的な患者ケア (看護計画立案、指示受け、他のスタッフの指導、連絡調整、電話応対など)	%
学生への教育(準備の期間も含む)	%
研究	%
その他 →具体的に()	%
合 計	100%

Q17. 就職後からこれまでの業務実践において、インシデント・アクシデントに関わったことがありますか。件数でお答えください。

関連したことが患者に実施される前に気づいた場合	件
関連したことが患者に実施されたが、患者に変化がなかった場合	件
関連したことや事故により患者に変化が生じ、観察が必要となったが治療の必要がなかった場合	件
関連したことや事故により患者に治療が必要となった場合など	件

ご協力、ありがとうございます。

総括

平成 21 年度厚生労働科学研究補助金（特別研究事業）研究報告書

「新人看護職員研修のあり方に関する研究」

本研究は、平成 21 年度厚生労働科学研究補助金により実施されたものである。

2010 年 3 月発行

青森県立保健大学 上泉和子
〒030-8505 青森市大字浜館字間瀬 58-1
TEL&FAX 017-765-2044
